

令和6年二級建築士学科試験 合格推定点と講評

講師の岡部です。

昨日の二級建築士学科試験を受験された皆さん！お疲れ様でした。

手応えはいかがでしたか？

令和6年 二級建築士学科試験の講評をいたします。

■TAC 合格推定点

TAC 合格推定点 60 点以上

TAC 各科目基準点 計画 13 点以上、法規 13 点以上、構造 13 点以上、施工 13 点以上

午前中の計画、法規は「やや簡単」で、午後の構造と施工は「やや難しかった」のですが、合格基準点は例年通りと推定します。自己採点で無事に合格点に達した方は、すぐに設計製図の対策に移りましょう。

なお、この推定点は TAC が独自に算出したものです。実際の合格点とは異なる場合があります。すくことをご了承下さい。毎年受験生の答案状況に応じて基準点が変わることがあります。試験実施機関による正式な合格発表は 8 月 26 日(月)が予定されていますので正確にはそちらをご確認下さい。

それでは、講評です。

●計 画

標準的な難易度の問題でした。新規問題もいくつかありましたが、全体的には過去問ベースで対応可能な問題が多く、頻出の問題をしっかりとこなしていれば、十分科目基準点はとれたかと思います。

【**建築史**】No2. の近代建築史は、新規問題が並ぶ難問でした。旧日向家熱海別邸のジョサイア・コンドルが×。ジョサイア・コンドルは明治時代に日本に来て日本建築の近代化に貢献した人物です。有名人ではありますが、二級建築士では初出題。正答出来た人は少なかったと思います。逆に No1. の日本建築史は、頻出の選択肢が並びました。その中で、出雲大社の平入りが×。絶対に落としてはいけない問題です。

【**環境工学**】No4. の換気回数の定義や No8. の光の三原色など、比較的平易な問題がならびます。No10. 夏日と冬日の定義はやや難しく、これまでの出題では真夏日、真冬日の定義でしたので、勘違いをしないように注意が必要でした。

【**計画各論**】No12. のコレクティブハウスや No15. プロセニウムステージなど、頻出の内容がそのまま正答肢になっている問題が大半でした。No17. では「高齢者の転倒防止のための

床面と上がり框の色を類似色調にした。」が×。これは新規問題なのですが、常識的に考えればわかる問題でした。

【**建築設備**】やや難問が混じりました。N○22.では太陽熱集熱器の平板型と真空管型の違いが新規問題でこれが正答肢となっています。N○23.のスターデルタ始動は平成24年に出題のあったレアな問題ですが、これが正答肢。N○24.アトリウム空間の火災検知器は新規問題で、設置するのは煙感知器でなく炎検知器。これらは難問の部類で、落としても良いと思います。逆にN○25.の「タスク・アンビエント照明方式は、室内の冷房負荷が大きくなる⇒×」は頻出の内容なので、おとしはいけません。

●法規

標準的～やや易しい問題です。新規の内容が少なく、計算問題も過去よく見たパターンの問題でした。

【**建築基準法**】N○1.の用語問題では、土台が「主要構造部」かどうかを判断する必要がありました。これは2級では初出題ですが、1級で出題がある問題で、土台は主要構造部ではないので大規模の修繕に該当する、は×。やや難問ですが、他の肢がどう見ても正答肢なので、消去法で解答できる問題です。

計算問題は例年どおりの4問で、N○5.の「採光計算」、N○15.「建蔽率」、N○16.「容積率」、N○17.「高さの計算」でした。どれも良く見たパターンの計算問題で、比較的簡単に答えを得ることができますが、N○5.「採光の計算」では、隣地境界線の反対側に川があるので緩和が適用されます。うっかり見落とさないようにしましょう。

N○20.の「景観重要建造物」と「伝統的建造物群保存地区」はいずれも古い問題の復活問題です。法令集を探し回った人も多いかもかもしれません。これは、出題がN○20.であることから「雑則の問題」と推定して、法令集を探せば見つけやすかったでしょう。

【**関係法令**】例年通りN○21. N○22.は建築士法からの出題です。毎年頻出の問題が出題されますので必ず得点をしたいところです。N○23.都市計画法で「高度利用地区」が出題されました。「高度利用地区」はその地区をより大きな建物を建てて高い水準で利用するようにした地区のことで、問題文の内容は「高度地区」の説明になっているので×。この二つは一級建築士の計画でよく出題される内容で、今後2級でも出題が増えると予想されます。

●構造

標準的な難易度の問題でした。力学はやや難しい内容です。文章問題は新規の内容がある程度目立ちましたが、正答肢は過去問ベースの問題が多く、頻出問題をしっかり理解するように学習ができていれば、科目基準点はとれたかと思います。

【構造力学】

No 1. の断面の計算は難問でした。この問題はまともに計算をすると、とても時間がかかるので、後回しにしましょう。できれば計算せずに答えを出すと良いです。断面Aと断面Dは全てが倍の大きさになっているので、幅×高さの三乗で、16倍程度の大きさになるはずですので、「8倍と等しい」は×です。No 2. ~No 4. は先に、ある点の応力が分かっているときの荷重や断面の形状を求める問題で、計算の意味が理解できているかが試されました。しっかり計算式を作って、どこの数値をどの順番で求めるかを考える必要があります。

【構造設計】

新規問題が見られますが、正答肢は頻出の内容が多く、No 7. の積雪荷重を零と出来るのは屋根勾配 45° は×で 60° が正しい数値です。No 8. の振動特性係数は固有周期が長くなると大きくなるは×、これらは確実に得点したい問題です。

【各種構造】

ほとんどの問題で正答肢は頻出の内容がベースとなっていますが、No 12. では枠組壁工法についての新規問題が出題されました。枠組み工法はこれまであまり多くの出題がないので、なかなか難しい問題です。正答肢は、せっこうボードの固定釘についてで、CN50 は×で、正しくはGNF40 です。今後枠組み壁工法についても学習をしていく必要があります。

【建築材料】

こちらにも易しい問題が多く点数を稼ぎたいところです。No 20 の木材については新規問題で、耐腐朽性及び耐蟻性が高い材料として、アカマツ、クロマツ、ベイツガが上げられていますが、これは×。木材を仕事などで扱っている人なら、ベイツガは防腐防蟻処理をして土台に使用することが常識、実務経験が問われた問題とも言えます。

● 施工

新規の内容が比較的多く、**標準的～やや難しい内容**でした。

午前の計画、法規がやや易しかった反動もあり、午後の構造・施工になってペースが乱れないように落ち着いて問題を解いていく必要がありました。マークミスなどをしないように注意しましょう。

【施工計画～仮設工事】

No 1. の施工計画やNo 2. の届出など、頻出の過去問をこなしていれば、十分対応な問題が続きます。

【各種工事】

No 7. の土工事は新規問題が4つ含まれる難問です。問題の出典は「建築工事監理指針」の「埋戻し及び盛土」からで、埋戻し土に最も適しているのは「川砂」でなく「山砂」。この

ような問題は、「私がわからない問題はみんなわからない」と考えて、悩まないのがコツです。施工の難しいところは、過去問でも細かい数値を覚えるのが難しい点です。N o 9. 基礎部分の鉄筋の最小かぶり厚さ、N o 10. のパイプサポートの水平つなぎの高さ、N o 13. スタッド溶接の鏝落としの範囲、など見たことはあるが、この数値であっているか? となりがちば問題にいかにかに正答できるかで勝敗が分かります。

【積算・請負契約】

N o 24. 積算は出題範囲の狭いところですので、言葉の定義をなんとか覚えてしまうと得点できます。「工事原価は直接工事費と共通仮設費である⇒×。」「工事原価は純工事費と現場管理費である。」が正です。N o 25. 請負契約は毎年難問ですね。今年は監理業務について集中的に出題されました。肢5の「設計図書の内容に不適當な内容を発見した場合は受注者に通知する」は、令和4年にも同じ内容で出題されており、○。標準監理業務の問題で、「設計図書の内容に不適當な内容を発見した場合は建築主に報告する」と混同しやすいので注意しましょう。

総評は以上になります。難問もいくつかみられましたが、ベースはやはり過去の頻出問題です。過去問を理解する努力をし、そこに出てくる数値を覚える工夫をした人は、十分に合格推定点に到達できたと思います。

さあ、次は設計製図試験です

TACでは「**二級設計製図試験 課題の概要説明会（ゲストハウス）**」を

7/11（木）・13（土）・14（日）に実施します！

詳細は[こちら](#)をご確認ください。

今年の一発合格を目指して、設計製図試験に向けて頑張りましょう！

皆様の好結果を祈念しています

TAC建築士講座

令和6年7月8日

この総評の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。